

平成30年6月1日～22日まで、平成30年第2回定例会が行われました。

6月12日（火）、「地産地消で『健康都市おおぶ』らしさを生かすため」について、一般質問させていただきました。一般質問の様子は、大府市議会ホームページのインターネット録画中継でご覧いただけます。

-----般質問抜粋-----

「地産地消で『健康都市おおぶ』らしさを生かすため」について

質問：地産地消について、市民の理解をどう把握しているか

答弁：地産地消推進事業の評価指標として掲げ、市民意識調査による「地元農産物を日常的に購入している市民の割合」で把握している。平成29年度の市民意識調査の結果では57.9%でした。また、げんきの郷の売上げや集客数の推移も聞き取り、参考指標として把握している。

質問：大府駅前マルシェの効果はどうか

答弁：大府駅前マルシェは、自分たちで作った農産物を自分たちでPRし、消費者の皆さんと直接コミュニケーションを図りたいという若手農業者の想いからスタートしている。平成28年7月のマルシェ開始から2年程度経過し、この間、市内商工業者で組織する大府駅前マルシェ実行委員会も加わり、多くの市民の方や固定客も増えていることから、地産地消の推進につながっていると考えている。

質問：6次産業化をどのように推進していくのか

答弁：本市においては、「大府市6次産業化推進戦略」を本年5月に策定・公表した。既に市内畜産農家が、本戦略のメリットを活用し、補助事業の手続きを進めているとともに、ほかにも若手農業者から「農家レストランを設置したい」との問合せがあり、県と農家レストランの設置について、調整している。本市で生産される農畜産物を原材料とした「健康都市おおぶ」らしい魅力的な商品の開発等を積極的に支援していく。

質問：「健康都市おおぶ」として、地産地消をどう考えていくか

答弁：本市は生産地と消費地が隣接しており、地産地消の取組を推進するには、とても恵まれた地理的条件となっており、これらの地理的メリットを生かし、子どもへは、市内小学校での児童農業体験活動や出前講座、キッズ野菜ソムリエによる大府駅前マルシェでの販売体験等を通じて、大府産農産物の魅力を周知している。また、大人へは、大府駅前マルシェや木の山マルシェのPR、農畜産物直売所マップの配布、福祉健康フェア等のイベントでの野菜ソムリエから大府産農産物の良さのPR等を行うことにより大府産農産物の購入促進を図っている。これらの取組により、子どもの頃から農業の理解が深まり、地元で生産される農産物に興味を持ってもらい、大人になるにしたがって地元産の新鮮な野菜を購入するという「健康都市おおぶ」らしい地産地消の取組を推進していきたいと考えている。

最後に、

市民意識調査の結果で、20、30、40代において地産地消の取組みがあまりできていないことは、課題としていかなければならないと考えます。

大府市では、園児、小中学生に地産地消を学ぶ機会として地元野菜を使った給食が提供され、もしかして親世代よりも子ども達のほうが大府の特産品は何か、地産地消とは何か、を理解しているかもしれません。「食育」とは、第一に家庭で行われるものと思っておりますが、親子で一緒に学べる場も必要ではないかとも思っております。

今回の質問で、思うことは、「大府駅前マルシェ」についてです。先日、マルシェへ行った時、ある年配の女性が若手農業者の方へ色々質問をされておりました。その場では「新鮮なのは分かるが、値段がスーパーよりも高い！これだけしか種類がないの？」とおっしゃって何も買わずに帰られてしまいました。「地産地消マルシェ」とのぼりには書いてあり、地場の物が新鮮で安く買えると思いいらしたのだと感じました。大府市が支援をしているのであれば、このような貴重な意見も取り入れ、若手農業者がめざすマルシェとは何か、情報共有や課題解決になるような場を設けることも必要ではないかと考えます。また、マルシェ開催日には、大府駅にオープンした健康にぎわいステーション「KURUTO おおぶ」のカフェで大府産の野菜を使ったメニューを提供するなど、相乗効果になるような取組みを検討してはどうかと思います。是非、活気のあるマルシェになることを期待します。

大府市でも課題となっている、農業者の高齢化、後継者や担い手不足の解消となるような、また「健康都市おおぶ」らしい地産地消の取組みになることを願います。と意見を述べさせていただきました。

●土地区画整理事業施行に伴う町及び字の区域の変更について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第260条第1項の規定に基づき、大府共和西特定土地区画整理事業の換地処分に併せて町及び字の区域を変更するため、議会の議決を求めるもの
 実施時期 大府共和西特定土地区画整理事業の換地処分の公告があった日の翌日（平成32年4月頃を予定）

●補正予算

平成30年度大府市一般会計補正予算（第1号）

（単位：千円、％）

会計名	補正前の 予算額	補正 予算額	予算規模	平成29年度 6月補正後予算	差異	差異率
○一般会計	31,181,000	83,611	31,264,611	28,845,768	2,418,843	8.4
○特別会計	10,773,684	0	10,773,684	12,058,664	△1,284,984	△10.7
国民健康保険	7,344,736	0	7,334,736	8,382,341	△1,037,605	△12.4
公共下水道	2,344,389	0	2,344,389	2,572,979	△228,799	△8.9
農業集落排水	15,620	0	15,620	15,408	212	1.4
後期高齢者医療	1,068,939	0	1,068,936	1,087,936	△18,997	△1.7
○水道事業会計	3,676,207	0	3,676,207	2,862,763	813,444	28.4
合計	45,630,891	83,611	45,714,502	43,767,195	1,947,307	4.4

主な補正

- 民間保育所等整備費補助金 4,370万2千円の増額
民間保育所4園 平成31年4月開所予定
- 予防接種事故対策費 51万2千円
- 補助幹線道路改良事業 1,288万5千円の増額
橋梁補修を緊急に行わなければならない2橋の調査測量・設計管理委託料
- 消防施設整備事業 1,515万2千円の増額
賃貸借契約地にある、防火水槽について地権者より撤去の意向を受け解体工事及び撤去費用



トピックス

☆認知症の市民を被保険者とする個人賠償責任保険への登録を受付 ⇒ 市が契約、保険料支払

- ・対象 「おおひあったか見守りネットワーク」に事前に登録している市民
(認知症でも、福祉施設の入所者・認知症でない障害者は被保険者にならない)
- ・内容 保険料1人当たり2,000円、個人賠償責任が認められて場合 最大1億円
(本人が障害を負ったり死亡の場合 最大82万5千円、傷害を負わせて相手が親族などの場合は認められない)
- ・契約期間 1年、本人の状態を確認して1年ごと更新
- ・事業費 当初予算 20万円(登録者 100人見込み)
- ・受付 6月1日～

☆「徘徊」を別の表現で言い換える取組み

平成29年12月「認知症に対する不安のないまちづくり推進条例」制定
 単なる言い換えではなく、正しい理解を広め、認知症の人や家族がいつまでも住みやすい街にしていく一歩とし、「市民や地域、ほかの自治体にも呼びかけ、認知症に対する正しい理解を普及させていく」ため

☆5月臨時会において、議会人事が行われました。(委員会は1年任期)

私は、今年度、議会運営委員会(副委員長)・総務委員会・議会広報委員会に配属されました。

議会運営委員会

年間研究テーマ「議会改革」

●タブレット端末(ICT)、議員定数、傍聴規則、その他議会活性について

総務委員会

年間研究テーマ「超高齢化対策＝地域包括ケア推進についての政策」について

勉強させていただきます。

どんなことでも構いませんので、ご意見やご質問などありましたら下記までご連絡ください。



<http://k-hisako.jp>

木下ひさ子後援会事務所

OBU 木下ひさ子

検索

〒474-0035 大府市江端町二丁目88番 TEL/FAX:0562-48-0244 メール:info@k-hisako.jp

